

令和5年度

入所施設における新型コロナウイルス 感染症に関する調査報告

入所施設における新型コロナウイルス
感染症に関する調査報告

公益財団法人日本知的障害者福祉協会
調査・研究委員会

I 調査経過

令和5年度も前年度に引き続き、入所施設（障害者支援施設・障害児入所施設）における新型コロナウイルスの感染状況や対応の状況等を把握し、そこから見える傾向や直面している固有の課題等を見出す基礎資料を収集するため、本調査を実施した。会員事業所1,783か所に調査票を送付し、1,224か所（回収率68.6%）から回答を得ることができた。

新型コロナウイルス感染症の脅威は、令和4年度も引き続き国民生活に多大な影響を与えた。いわゆるオミクロン株による爆発的な感染拡大にさらされ、入所施設においても、感染者数や感染率等において前年度の値を大幅に上回る結果となった。集団感染（クラスター）に至ってしまった施設も多く、対応に大いに苦慮されたものと思われるが、そのような中で、ユニットや個室の存在が感染発生後の隔離等の措置を可能とし、感染拡大の防止に一定の効果を果たしたと推測できる結果も見られている。

一方、重症化率・死亡率については前年度を大きく下回る結果となった。この結果はオミクロン株の特性やワクチン接種の効果だけではなく、感染発生後の施設内での措置がより適切に行われるようになったことが大きな要因の一つであると推察される。

今年度は、感染症対策のための事業継続計画（BCP）の策定状況についての設問も加え調査した。感染症分類における2類相当から5類へと変更され、新型コロナウイルスへの対応も新たな段階へと進んだところであるが、将来の新興感染症等への対応と施設の事業継続への備えはますます重要となっている。

昨年度に続き全国実態調査に加えての本調査となり、ご協力いただいた会員の皆様には深く感謝をしている。本調査から得たデータは、他の事業種別や一般国民、諸外国との比較、また今後の感染症対策への参考としても活用し得ると考える。

調査・研究委員会 委員長 梶 浦 英 与

Ⅱ 調査結果

※令和4年4月1日～令和5年3月31日までの状況に関する調査結果

表1 送付数と提出数 (施設数)

	送付数	提出数	回収率
障害者支援施設	1,569	1,064	67.8%
障害児入所施設	214	160	74.8%
計	1,783	1,224	68.6%

表1は、調査票の送付数と提出数を示したものである。

本調査は、会員である障害者支援施設及び障害児入所施設1,783か所（前年度1,849か所）に調査票を送付し、1,224か所（前年度1,265か所）から回答を得ることができた。回収率は68.6%（前年度68.4%）であった。

回収率の内訳は、障害者支援施設が67.8%（前年度69.6%）、障害児入所施設が74.8%（前年度59.8%）であった。

表2 居住棟の形態 (施設数)

	障害者 支援施設	障害児 入所施設	合計
大舎	776	100	876
	72.9%	62.5%	71.6%
ユニット	203	48	251
	19.1%	30.0%	20.5%
その他	23	8	31
	2.2%	5.0%	2.5%
大舎+ユニット	8	4	12
	0.8%	2.5%	1.0%
無回答	54		54
	5.1%		4.4%
計	1,064	160	1,224
	100%	100%	100%

表2は、居住棟の形態（重複計上）を示したものである。

全体では、大舎であると回答したのは71.6%（876か所）、ユニットに分かれていると回答したのは20.5%（251か所）、大舎かつユニットがあると回答したのは1.0%（12か所）であった。障害者支援施設、障害児入所施設のいずれも、大舎、ユニット、その他、大舎+ユニットの順であった。

表3 居室の形態（個室利用の割合）

	障害者支援施設				障害児入所施設				合計			
	施設数 (個室 利用有)	総定員 (夜間)	個室 利用数	定員に 対する 個室利用 の割合	施設数 (個室 利用有)	総定員 (夜間)	個室 利用数	定員に 対する 個室利用 の割合	施設数 (個室 利用有)	総定員 (夜間)	個室 利用数	定員に 対する 個室利用 の割合
大舎	606	41,213	13,821	33.5%	69	3,620	937	25.9%	675	44,833	14,758	32.9%
ユニット	188	12,015	9,125	75.9%	46	1,535	1,093	71.2%	234	13,550	10,218	75.4%
その他	22	1,660	850	51.2%	6	165	99	60.0%	28	1,825	949	52.0%
大舎+ユニット	8	520	289	55.6%	4	150	43	28.7%	12	670	332	49.6%
無回答	36	2,678	1,033	38.6%					36	2,678	1,033	38.6%
実数	1,064	47,147	25,118	53.3%	160	4,237	2,172	51.3%	1,224	51,384	27,290	53.1%

表3は、居室の形態（個室利用の割合）を示したものである。

全体では、定員に対する個室利用の割合は53.1%で、障害者支援施設、障害児入所施設のいずれも、大舎のみである施設より大舎かつユニットがある施設の方が個室利用の割合は高く、ユニットのみである施設は40ポイント以上高かった。

表4 在籍者の状況

(人数)

	20歳未満	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	計
障害者支援施設	423	3,578	6,490	12,552	14,951	9,981	5,980	1,707	55,662
	0.8%	6.4%	11.7%	22.6%	26.9%	17.9%	10.7%	3.1%	100%
障害児入所施設	3,974	99	75	43	51	10	1		4,253
	93.4%	2.3%	1.8%	1.0%	1.2%	0.2%	0.0%		100%
計	4,397	3,677	6,565	12,595	15,002	9,991	5,981	1,707	59,915
	7.3%	6.1%	11.0%	21.0%	25.0%	16.7%	10.0%	2.8%	100%

表4は、在籍者の状況（年齢構成）を示したものである。

全体では、最も多い年齢階層は50代で、次いで40代、60代、30代の順であった。

障害児入所施設では、本来の対象が属する20歳未満の年齢階層が最も多い一方で、60代以上も0.3%（11人）在籍していた。

表５－１ 新型コロナウイルス感染者の状況

※複数回感染した場合には各々計上（人数）

		20歳未満	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	計
障害者支援施設	軽症	138	1,747	3,200	6,350	7,172	4,384	2,354	627	25,972
	中等症Ⅰ,Ⅱ	1	48	86	202	323	296	206	100	1,262
	重症		1	4	11	19	16	13	8	72
	死亡			1	5	14	13	12	4	49
	感染者(計)	139	1,796	3,291	6,568	7,528	4,709	2,585	739	27,355
障害児入所施設	軽症	1,848	55	40	18	36	7	1		2,005
	中等症Ⅰ,Ⅱ	6			1					7
	重症	1								1
	死亡						1			1
	感染者(計)	1,855	55	40	19	36	8	1		2,014
計	軽症	1,986	1,802	3,240	6,368	7,208	4,391	2,355	627	27,977
	中等症Ⅰ,Ⅱ	7	48	86	203	323	296	206	100	1,269
	重症	1	1	4	11	19	16	13	8	73
	死亡			1	5	14	14	12	4	50
	感染者(計)	1,994	1,851	3,331	6,587	7,564	4,717	2,586	739	29,369

表５－１は、感染者の状況（複数回感染は各々計上）を示したものである。なお、今回の調査対象期間（令和４年度）は、いわゆるオミクロン株による感染が広がり、爆発的な感染者数を記録した第７波と第８波が襲来した時期である。

全体では、延29,369人（前年度延6,893人）が感染した。前年度と比べると、調査提出数に違いはあるものの感染者が非常に多かったことがわかる。

障害者支援施設では、延27,355人が感染した。年齢階層別で見ると、50代、40代、60代、30代の順で、在籍者数の状況と同様だった。感染者の症状を見ると、ほとんどが軽症（延25,972人）だったが、重症に至った人が延72人、死亡した人が49人いた。

障害児入所施設では、延2,014人が感染した。感染者の症状を見ると、ほとんどが軽症（延2,005人）だったが、重症に至った人が１人、死亡した人が１人いた。

表５－２ 新型コロナウイルスの年代別感染率

施設種別	区分	20歳未満	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	計
障害者支援施設	在籍者数	423	3,578	6,490	12,552	14,951	9,981	5,980	1,707	55,662
	感染者数	139	1,796	3,291	6,568	7,528	4,709	2,585	739	27,355
	感染率	32.86%	50.20%	50.71%	52.33%	50.35%	47.18%	43.23%	43.29%	49.14%
障害児入所施設	在籍者数	3,974	99	75	43	51	10	1		4,253
	感染者数	1,855	55	40	19	36	8	1		2,014
	感染率	46.68%	55.56%	53.33%	44.19%	70.59%	80.00%	100%		47.35%
計	在籍者数	4,397	3,677	6,565	12,595	15,002	9,991	5,981	1,707	59,915
	感染者数	1,994	1,851	3,331	6,587	7,564	4,717	2,586	739	29,369
	感染率	45.35%	50.34%	50.74%	52.30%	50.42%	47.21%	43.24%	43.29%	49.02%

※感染率＝延感染者数÷在籍者数

表５－２は、感染率（延感染者数を在籍者数で割ったもの）を示したものである。

全体では49.02％（前年度11.13％）で、前年度の４倍を超える割合となった。障害者支援施設では49.14％（前年度10.81％）、障害児入所施設では47.35％（前年度16.40％）であった。

年齢階層別に見ると、全体では40代（52.30％）が最も高く、次いで30代（50.74％）、50代（50.42％）、20代（50.34％）の順であった。60代以上の年齢階層では感染率が全体の平均より低く、前年度と同様に施設内で高齢利用者への感染を防ぐ対策がとられていたことが推察される。

表５－３ 新型コロナウイルス感染者における年代別重症化率・死亡率

施設種別	区分	20歳未満	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	計
障害者支援施設	感染者数	139	1,796	3,291	6,568	7,528	4,709	2,585	739	27,355
	重症者数		1	4	11	19	16	13	8	72
	死亡者数			1	5	14	13	12	4	49
	重症化率		0.06%	0.15%	0.24%	0.44%	0.62%	0.97%	1.62%	0.44%
	死亡率			0.03%	0.08%	0.19%	0.28%	0.46%	0.54%	0.18%
障害児入所施設	感染者数	1,855	55	40	19	36	8	1		2,014
	重症者数	1								1
	死亡者数						1			1
	重症化率	0.05%					12.50%			0.10%
	死亡率						12.50%			0.05%
計	感染者数	1,994	1,851	3,331	6,587	7,564	4,717	2,586	739	29,369
	重症者数	1	1	4	11	19	16	13	8	73
	死亡者数			1	5	14	14	12	4	50
	重症化率	0.05%	0.05%	0.15%	0.24%	0.44%	0.64%	0.97%	1.62%	0.42%
	死亡率			0.03%	0.08%	0.19%	0.30%	0.46%	0.54%	0.17%

※重症化率＝（死亡者数＋重症者数）÷延感染者数

表５－３は、重症化率（重症と死亡を合わせた数を延感染者数で割ったもの）と死亡率を示したものである。

まず重症化率は、全体では0.42％（前年度1.10％）で、前年度を大きく下回った。障害者支援施設では0.44％（前年度1.19％）、障害児入所施設では0.10％（前年度0.17％）であった。

次に死亡率は、全体では0.17％（前年度0.62％）で、これも前年度を大きく下回った。障害者支援施設では0.18％（前年度0.68％）、障害児入所施設では0.05％（前年度０％）であった。年齢階層別に見ると、階層が上がるほど高値となり、最も高かった80代は0.54％だった。

いずれの施設種別でも、前年度と比べると感染率が大きく増加したのに対して重症化率と死亡率は大きく減少したが、諸外国や一般国民の感染者数重症度分類による割合との比較などについては、さらなる調査が必要である。

表6－1 居住棟の形態と新型コロナウイルス感染率

(施設数)

		大舎	ユニット	その他	大舎＋ ユニット	居住棟 無回答	合計
感 染 率	0 % または不明	147	32	2	0	7	188
	0 %超	102	33	5	1	6	147
	20 %未満	14.0%	15.1%	17.2%	8.3%	12.8%	14.2%
	20 %以上	103	56	3	3	4	169
	40 %未満	14.1%	25.6%	10.3%	25.0%	8.5%	16.3%
	40 %以上	117	55	8	2	13	195
	60 %未満	16.0%	25.1%	27.6%	16.7%	27.7%	18.8%
	60 %以上	153	36	7	3	6	205
	80 %未満	21.0%	16.4%	24.1%	25.0%	12.8%	19.8%
	80 %以上	177	31	4	3	15	230
	100 %未満	24.3%	14.2%	13.8%	25.0%	31.9%	22.2%
	100 %	45	5	2		3	55
		6.2%	2.3%	6.9%		6.4%	5.3%
	100 %超	32	3				35
		4.4%	1.4%				3.4%
	合計	729	219	29	12	47	1,036
		100%	100%	100%	100%	100%	100%

表6－1は、施設の居住棟の形態と感染率との比較を示したものである。

館内で感染が発生してしまった施設（感染率が0 %超以上）で見ると、大舎のみである施設では感染率80 %以上100 %未満が24.3 %で最も多かったのに対し、ユニットに分かれている施設では感染率20 %以上40 %未満が25.6 %で最も多かった。前年度よりその差は顕著ではないものの、ユニット単位でゾーン分けを行う等の措置により、感染拡大を防げたことが推察される。

表6-2 施設の個室利用率と新型コロナウイルス感染率

(施設数)

		施設の個室利用率							
		0 % または不明	0 %超 20%未満	20%以上 40%未満	40%以上 60%未満	60%以上 80%未満	80%以上 100%未満	100%※	合計
感 染 率	0 % または不明	52	33	31	19	5	15	33	188
	0 %超 20%未満	26 12.4%	30 15.9%	19 12.1%	10 12.0%	9 14.3%	12 19.7%	41 15.0%	147 14.2%
	20%以上 40%未満	23 11.0%	17 9.0%	22 14.0%	13 15.7%	7 11.1%	10 16.4%	77 28.2%	169 16.3%
	40%以上 60%未満	42 20.0%	24 12.7%	32 20.4%	20 24.1%	19 30.2%	8 13.1%	50 18.3%	195 18.8%
	60%以上 80%未満	39 18.6%	45 23.8%	35 22.3%	14 16.9%	12 19.0%	14 23.0%	46 16.8%	205 19.8%
	80%以上 100%未満	54 25.7%	50 26.5%	39 24.8%	20 24.1%	13 20.6%	11 18.0%	43 15.8%	230 22.2%
	100%	16 7.6%	15 7.9%	4 2.5%	3 3.6%	2 3.2%	3 4.9%	12 4.4%	55 5.3%
	100%超	10 4.8%	8 4.2%	6 3.8%	3 3.6%	1 1.6%	3 4.9%	4 1.5%	35 3.4%
	合計	210 100%	189 100%	157 100%	83 100%	63 100%	61 100%	273 100%	1,036 100%

※個室利用率100%には、個室が現在員以上ある施設（個室率が100%を超える施設）を含む

表6-2は、施設の個室利用率と感染率との比較を示したものである。

館内で感染が発生してしまった施設（感染率が0%超以上）で見ると、個室利用率が40%未満の施設では感染率80%以上100%未満が最も多く、個室利用率が100%の施設では、感染率20%以上40%未満が最も多かった。個室の存在が、感染発生後の隔離等の措置を可能とし一定の効果を果たしたことが推察される。

表6-3 居住棟の形態と施設の個室利用率

(施設数)

		施設の個室利用率							
		0%もしくは 不明	0%超 20%未満	20%以上 40%未満	40%以上 60%未満	60%以上 80%未満	80%以上 100%未満	100%※	合計
居住棟 の 形 態	大舎	211	199	156	77	48	49	136	876
		24.09%	22.72%	17.81%	8.79%	5.48%	5.59%	15.53%	100%
	ユニット	26	7	18	19	15	21	145	251
		10.36%	2.79%	7.17%	7.57%	5.98%	8.37%	57.77%	100%
	その他	4	5	5	3	3	3	8	31
		12.90%	16.13%	16.13%	9.68%	9.68%	9.68%	25.81%	100%
	大舎+ ユニット		4	3	1		1	3	12
			33.33%	25.00%	8.33%		8.33%	25.00%	100%
	居住棟 無回答	21	7	6	2	2	2	14	54
		38.89%	12.96%	11.11%	3.70%	3.70%	3.70%	25.93%	100%
	合計	262	222	188	102	68	76	306	1,224
		21.41%	18.14%	15.36%	8.33%	5.56%	6.21%	25.00%	100%

※個室利用率100%には、個室が現在員以上ある施設（個室率が100%を超える施設）を含む

表6-4 大舎かつ個室利用率20%未満の施設の感染率
(施設数)

大舎のみの施設		個室利用率		
		0%	0%超 20%未満	合計
感 染 率	0% または不明	44	31	75
	0%超 20%未満	20	25	45
	20%以上 40%未満	20	17	37
	40%以上 60%未満	29	21	50
	60%以上 80%未満	30	39	69
	80%以上 100%未満	44	44	88
	100%	14	14	28
	100%超	10	8	18
	合計	167	168	335
		100%	100%	100%

表6-5 ユニットかつ個室利用率100%の施設の感染率
(施設数)

ユニットのみの施設		個室利用率
		100%※
感 染 率	0%または不明	18
	0%超 20%未満	21
	20%以上 40%未満	46
	40%以上 60%未満	25
	60%以上 80%未満	13
	80%以上 100%未満	15
	100%	4
	100%超	3
	合計	127
		100%

※個室利用率100%には、個室が現在員以上ある施設（個室率が100%を超える施設）を含む

表6-3～表6-5は、さらに、施設の居住棟の形態と施設の個室利用率とを掛け合わせて集計したうえで、大舎でありかつ個室利用率20%未満の施設の感染率と、ユニットでありかつ個室利用率100%の施設の感染率を示したものである。

表6－4と表6－5を比較すると、館内で感染が発生してしまったが感染率を40％未満に抑えることができた施設の割合は、ユニットかつ個室率100％の施設の方が大舎かつ個室率20％未満の施設に比して25ポイント以上高かった。ここでも、ユニットや個室の存在が感染拡大の防止に一定の効果を果たしたことが推察される。

表7 年代別新型コロナウイルス入院率

施設種別	区分	20歳未満	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	計
障害者支援施設	感染者数	139	1,796	3,291	6,568	7,528	4,709	2,585	739	27,355
	入院数	1	26	63	126	197	188	152	70	823
	入院率	0.72%	1.45%	1.91%	1.92%	2.62%	3.99%	5.88%	9.47%	3.01%
障害児入所施設	感染者数	1,855	55	40	19	36	8	1		2,014
	入院数	35	2			1	1			39
	入院率	1.89%	3.64%			2.78%	12.50%			1.94%
計	感染者数	1,994	1,851	3,331	6,587	7,564	4,717	2,586	739	29,369
	入院数	36	28	63	126	198	189	152	70	862
	入院率	1.81%	1.51%	1.89%	1.91%	2.62%	4.01%	5.88%	9.47%	2.94%

※入院率＝延入院者数÷延感染者数

表7は、感染者の入院率（延入院者数を延感染者数で割ったもの。複数回入院は各々計上）を示したものである。

入院者数は延862人（前年度662人）で、入院率は全体では2.94％（前年度9.60％）と、前年度を大きく下回った。障害者支援施設では3.01％（前年度9.62％）、障害児入所施設では1.94％（前年度9.44％）だった。オミクロン株の特性やワクチン接種率の向上により重症化率は低下し、感染発生後の施設内での対処がより適切に行われるようになったことにより、入院に至らずに軽快した例が増えたものと思われる。

年齢階層別に見ると、全体では80代以上（9.47％、前年度20.91％）が最も高く、次いで70代（5.88％、前年度16.97％）、60代（4.01％、前年度12.77％）の順であり、高齢の感染者ほど入院に至った状況が見てとれる。

表8－1 入院した利用者の入院日数（最短日数・最長日数）（日数）

	最短日数	最長日数
障害者支援施設	1	254
障害児入所施設	1	12

表８－２ 入院した利用者の入院日数（平均日数）（施設数）

		障害者支援施設		障害児入所施設	
平均 日 数	１～９日	93	31.5%	8	66.7%
	10～19日	139	47.1%	4	33.3%
	20～29日	16	5.4%		
	30～39日	15	5.1%		
	30～49日	11	3.7%		
	50～99日	17	5.8%		
	100日以上	4	1.4%		
	合計	295	100%	12	100%

表８－１と表８－２は、入院した利用者の入院日数を示したものである。

回答があった施設それぞれの平均日数を算出すると、障害者支援施設の約８割（232か所）、障害児入所施設のすべて（12か所）が20日に満たない日数となった一方で、障害者支援施設では最長で254日入院された人があるなど、平均日数が100日以上となった施設が４か所あった。

表９ 入院を要請したにもかかわらず入院できなかった利用者の有無とその人数（施設数）

	なし	あり			無回答	計
			人数	うち後日入院 できた人数		
障害者支援施設	725	129	318	63	210	1,064
障害児入所施設	124	6	14	3	30	160
計	849 69.4%	135 11.0%	332 —	66 —	240 19.6%	1,224 100%

表９は、入院できなかった利用者の状況を示したものである。

約７割の施設が入院できなかった利用者はいなかったと回答した一方で、少なくとも135施設で延332人が「入院を要請したにもかかわらず入院できなかった」と回答しており、うち後日入院できた人は66人で19.9%にとどまっている。

表10 感染した利用者の予後（人数）

	軽快	後遺症あり	うち後遺症 の治療あり	死亡	予後不明	計
障害者支援施設	22,276	113	81	53	1,007	23,449
障害児入所施設	1,787	8	8	1	37	1,833
計	24,063 95.2%	121 0.5%	89 73.6%	54 0.2%	1,044 4.1%	25,282 100%

表10は、感染した利用者の予後を示したものである。

表５－１と表５－２における回答との不整合が見られたが、回答を得た施設利用者の多くが軽快と

なった（95.2%，24,063人）一方で，何らかの後遺症が生じた人や死亡した人が見られた。

何らかの後遺症が生じた人のうち，7割以上がその治療を要した。障害児入所施設では全員が「治療あり」との回答だった。

表11 クラスター（5人以上）の発生回数

（施設数）

	0 回	1 回	2 回	3 回	4 回以上	無回答	計
障害者支援施設	197	571	187	31	20	58	1,064
障害児入所施設	43	74	26	6	5	6	160
計	240	645	213	37	25	64	1,224
		920 (79.3%)					
	1,160 (100%)						
	19.6%	52.7%	17.4%	3.0%	2.0%	5.2%	100%

表11は，クラスター（5人以上）の発生回数を示したものである。

調査対象期間においては，回答があった1,160施設のうち8割近くで1回以上のクラスターが発生し（79.3%，920か所），4回以上発生してしまった施設も25か所あった。

表12－1 事業継続計画（BCP）の策定状況

（施設数）

	策定 していない	策定 している	＊内訳は重複回答あり			無回答	計
			災害時 BCP（＊）	感染症対策 BCP（＊）	BCPの種類 いずれも 無回答		
障害者支援施設	314	741	474	540	107	9	1,064
障害児入所施設	52	105	66	76	18	3	160
計	366	846	540	616	125	12	1,224
	29.9%	69.1%	63.8%	72.8%	14.8%	1.0%	100%

表12－1は，事業継続計画（BCP）の策定状況を示したものである。

約7割の施設（846か所）でBCPを策定しており，そのうち災害時BCPを策定していると回答した施設が540か所，感染症対策BCPを策定していると回答した施設が616か所（以上は重複回答あり），BCPの種類について無回答が125か所あった。

以降，表12－2から表12－5については，感染症対策BCPを策定していると回答した施設について述べる。

表12-2 感染症対策BCPにおける新型コロナ対策に関連する担当部署もしくは責任者等の配置状況 (施設数)

	明記 していない	明記 している	担当部署 を設置	責任者や 係を配置	無回答	計
障害者支援施設	84	453	169	373	3	540
障害児入所施設	15	59	20	46	2	76
計	99 16.1%	512 83.1%	189 -	419 -	5 0.8%	616 100%

表12-3 コロナ責任者の専従・兼務状況 (施設数)

	専従	兼務	無回答	計
障害者支援施設	18	307	48	373
障害児入所施設	3	36	7	46
計	21 5.0%	343 81.9%	55 13.1%	419 100%

表12-2と表12-3は、感染症対策BCPへの新型コロナ対策に関連する担当部署・責任者等の明記の状況を示したものである。

感染症対策BCPを策定している施設のうち、約8割（512か所）が担当部署もしくは責任者等を明記しており、そのうち担当部署を設置している施設は189か所、責任者や係等を配置している施設は419か所あった。

責任者や係等の専従・兼務の状況は、配置していると回答した施設の約8割が他との兼務であり、専従で配置している施設は5.0%（21か所）だった。

表12-4 コロナ禍における感染症対策BCPの追加・修正状況

	追加・修正 した	追加・修正 していない	無回答	計
障害者支援施設	338	184	18	540
障害児入所施設	40	31	5	76
計	378 61.4%	215 34.9%	23 3.7%	616 100%

表12-5 感染症対策BCPの追加・修正の内容

	障害者 支援施設	障害児 入所施設	計	割合
a. 体制・役割分担の整理	213	30	243	64.3%
b. 情報の収集・共有	132	16	148	39.2%
c. 感染拡大防止の対応（来所制限・ゾーニング等）	263	36	299	79.1%
d. 保健所・医療機関等との連携	96	14	110	29.1%
e. 備蓄品の確保	163	21	184	48.7%
f. 事業継続の対応（業務縮小・職員や支援者のやりくり等）	166	21	187	49.5%
g. その他	12	1	13	3.4%
感染症対策BCPの追加・修正を行った施設数	338	40	378	100%

表12-4と表12-5は、コロナ禍における感染症対策BCPの追加・修正の状況を示したものである。

感染症対策BCPを策定している施設のうち、約6割がコロナ禍において何らかの追加・修正をしており、追加・修正の内容は「感染拡大防止の対応（来所制限・ゾーニング等）」（79.1％）が最も多く、次いで「体制・役割分担の整理」（64.3％）、「事業継続の対応（業務縮小・職員や支援者のやりくり等）」（49.5％）、「備蓄品の確保」（48.7％）の順だった。

表13 新型コロナウイルス感染症が感染症分類における2類から5類に変更になって困っていること

	障害者 支援施設	障害児 入所施設	計	割合
a. 感染状況等の情報の不足	650	86	736	60.1%
b. 感染しているかどうかの予測や判断の難しさ	548	80	628	51.3%
c. 感染対策の方針の更新	416	57	473	38.6%
d. 備品・検査キット等の補助の終了	483	66	549	44.9%
e. 運営基準の臨時的な取り扱い等	202	28	230	18.8%
f. 複数感染の発生	237	31	268	21.9%
g. その他	111	14	125	10.2%
事業所実数	1,064	160	1,224	100%

表13は、新型コロナウイルス感染症が感染症分類における2類相当から5類に変更になってから困っていることを示したものである。

これは全ての施設に問うた設問であったが、「感染状況等の情報の不足」（60.1％）との回答が最も多く、次いで「感染しているかどうかの予測や判断の難しさ」（51.3％）、「備品・検査キット等の補助の終了」（44.9％）の順だった。

令和5年度 入所施設における新型コロナウイルス感染症に関する調査票

		日本知的障害者福祉協会 調査・研究委員会				
事業所名					TEL	
都道府県		事業種別		障害者支援施設・障害児入所施設		
居住棟の形態		☐ 大舎（従来型） ☐ ユニット ☐ その他			居室形態	☐ 個室利用（ ）室 ☐ 複数人利用（ ）室
定員	昼	名	現在員	昼	名	
	夜	名		夜	名	

1. 在籍者（入所児・者）の状況（令和5年6月1日現在） (人)

	20歳未満	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	計
入所児・者									

2. 新型コロナウイルス感染者の状況

(1) 施設入所児・者の感染状況（令和4年4月1日～令和5年3月31日）

※新型コロナウイルス感染症の「軽症」「中等症Ⅰ・Ⅱ」「重症」の分類については、調査票送付鏡文に記載の別表「新型コロナウイルス感染症重症度分類表」を参照のこと。分類表における「酸素飽和濃度」については、把握している範囲で「最も状態が悪い時」を基準に分類のこと。

※1人が複数回感染した場合には重複計上(延数)で回答のこと。 (延人)

新型コロナウイルス感染症の重症度	20歳未満	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	計
軽 症									
中等症Ⅰ・Ⅱ									
重 症									
死 亡									◎
感染児・者計									★

(2) 新型コロナウイルス感染症による施設入所児・者の入院の状況（令和4年4月1日～令和5年3月31日）

※複数回入院した場合には重複計上(延数)で回答のこと (延人)

	20歳未満	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	計
入院者									

(3) 入院した施設入所児・者の入院日数（令和4年4月1日～令和5年3月31日）

	最短入院日数	最長入院日数	平均入院日数
入院日数	日	日	日

(4) 施設が入院を要請したにもかかわらず入院できなかった施設入所児・者の有無(令和4年4月1日～令和5年3月31日)

※すぐに入院できずに後日入院した場合には、「あり」に計上したうえで「後日入院」に再計上のこと

☐ あり () 人 → うち後日入院 () 人 ☐ なし

(5) 感染した施設入所児・者の予後(令和4年4月1日～令和5年3月31日の感染者の予後について回答のこと)

※後遺症についてはわかる範囲で回答のこと。※1人が複数回感染した場合には重複計上(延数)で回答のこと。※死亡(◎)と合計(★)は2(1)のそれと一致すること (延人)

	軽快	後遺症あり	死亡(◎)	不明	合計(★)
感染の予後	人	人	人	人	人

(6) 新型コロナウイルス感染症による後遺症の治療の有無(令和4年4月1日～令和5年3月31日の感染者について回答のこと)

※上記(5)で「後遺症あり」に計上された児・者のうち、後遺症による治療の有無及び治療を受けた人数(延人)を記入のこと。

☐ 後遺症で治療した児・者あり () 人 ☐ なし

(7) クラスター(5人以上)の発生回数(令和4年4月1日～令和5年3月31日)

回

3. その他の状況

(1) 事業継続計画(BCP)の策定状況

①事業継続計画(BCP)を策定していますか(令和4年度の状況でご回答ください)。

☐ a. 策定している (☐ 災害時BCPを策定 ☐ 感染症対策BCPを策定 → ②以降に回答)

☐ b. 策定していない → (2)以降に回答

② 感染症対策BCPの中に、「新型コロナ対策室(仮称)」、「新型コロナ対策責任者(仮称)」、「クラスター対策係(仮称)」等、新型コロナ対策に関連する担当部署もしくは責任者等は明記していますか。

☐ a. 明記している → ☐ a-1. 新型コロナ対策室等の担当部署を設置している

☐ a-2. コロナの責任者や係等を配置している (☐ 専従 ☐ 他の役職と兼務)

☐ b. 明記していない

③ コロナ禍において感染症対策BCPに追加・修正をしましたか。した点があれば内容をご回答ください。

☐ a. 追加・修正した → 以下より選択 ☐ b. 追加・修正しなかった → (2)以降に回答

<追加・修正した際の内容> (複数選択可)

☐ a. 体制・役割分担の整備 ☐ b. 情報の収集・共有 ☐ c. 感染拡大防止の対応(来所制限・ゾーニング等) ☐ d. 保健所・医療機関等との連携 ☐ e. 備蓄品の確保 ☐ f. 事業継続の対応(業務縮小・職員や支援者のやりくり等)

☐ g. その他 ()

(2) 新型コロナウイルス感染症が感染症分類における2類相当から5類に変更になってから困っていることを以下より選択してください。(複数選択可)

☐ a. 感染状況等の情報の不足 ☐ b. 感染しているかどうかの予測や判断の難しさ ☐ c. 感染対策の方針の更新 ☐ d. 備品・検査キット等の補助の終了 ☐ e. 運営基準の臨時的な取り扱い等

☐ f. 複数感染の発生

☐ g. その他 ()

--

--

ご協力ありがとうございました